【別添２】（様式例１）

平成３０年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(教務)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○幅広い進路目標の実現に向けた教育課程の設置 ○高大接続改革に対応した教育内容の実施 ▲授業内容の交流　および　授業研究の充実
3 分掌の抱える課題	個に応じたより丁寧な学習指導
4 今年度の具体的な重点目標	(1)　教科の特徴を生かし、「学習意欲を喚起し深い学びを得る授業」を推進する。 (2)　学科の特性に応じた「生徒の将来につながる授業」を推進する。 (3)　授業規律や学習環境を大切にするとともに「見通しをもった授業」を推進する。

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	①　「育みたい資質･能力から逆算した３年間の学習指導内容の研究」、「主体的・対話的で深い学びを得る授業の実践」を本年度の学習指導における校内研修の全校統一テーマに設定し、生徒の学習意欲向上に努めます。 ②　①の推進のために、教員間の研修を重ね、授業の改善に取り組みます。 ③　「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取組を高める支援を推進します。	❶教員の丁寧な指導により生徒の学習意欲が向上し定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。	①　教員の丁寧な声かけと細かい指導により、欠点や提出物で学校生活に重荷を抱える生徒数は徐々に減ってきている。	B	○高い頻度で教科担任会議を行い､生徒の支援方法について議論を重ねつつ日々の指導を行えている。 ▲指導方法についての交流をさらに積極的に進めていきたい。	A (B) C D
		❷年間2回（5月と11月）の公開授業週間で、教員全員が①に関係する公開授業を実施・参観し、教科内での検討を行う。また、その情報を教科横断的に共有する。	②　全ての教員が公開授業を行った。また、研究授業後には教科内検討会も全教科で行い、授業についての意見交流を行っている。	B	○育友会行事とコラボレーションして公開授業週間を設けたため今年度は保護者等の参加が20名と昨年度よりも増加した。 ▲教科内交流の頻度については各教科、温度差がある。教務からの声かけをさらに高めていきたい。	
		❸学習についての「生徒及び保護者に対するアンケート」の評価が向上する。	③　保護者を対象とするアンケートにおいて「A：よく当てはまる」の評価が「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」ではH29:31.7%→H30:35.5%、「学校はできるだけ選択授業や少人数授業を行い生徒の理解	B	○習熟度別授業展開を積極的に実施し、「どの生徒も伸びる授業」を目標に各教科、日々内容を考えながら授業実践を行っている。 ▲主体的･対話的授業についての研究はこれから努力を要すると	

			を高めようとしている」では 36.7%→39.3%と向上した。		ころである。	

Ⅱ 学校関係者評価　　実施年月日：平成３１年１月２５日	12　来年度に向けての改善方策案
学校評議員のご意見 ・高大接続に伴う新入試は大きく現行のシステムと変わると聞いた。早期から十分な準備をして２年後を迎えてほしい。	・作成してきた単位制の教育課程が４月から実際に動き出すことになるが、上がってきた問題点は随時改善しながらより良い教育課程を生徒に提供していきたい。 ・教科内授業交流をさらに活発にできるように、教務部から声かけをしていきたい。

【別添２】（様式例１）

平成３０年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(進路)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○地元企業ガイダンスなどの地域と連携した取組による地元就職者数の確保（50%）と就職率100%の達成、分野別ガイダンスなどの進路行事による生徒の進路意識の向上 ▲３年間を見通したキャリア教育の推進
3 分掌の抱える課題	学科別・コース別に多様化する進路指導におけるキャリア教育の充実
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 情報提供･ガイダンス機能の充実 (2) キャリア教育の推進 (3) 地域を活性化する人材育成

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路指導	①キャリアガイダンスや上級学校による学部･学科説明会、地元企業を中心とする職場体験学習や企業見学会を実施します。 ②外部模試等の結果を踏まえて放課後の就職･公務員補習や進学補習、土曜講座、休暇中の特別補習、学習合宿を実施し、弱点強化を図ります。 ③保護者対象進学・就職説明会や、地元企業ガイダンス、保護者による模擬面接を実施します。	❶アンケートを用いての学校評議委員、保護者、生徒による進路関係の項目の評価が向上する。	①種々のガイダンスを計画通りに行い、生徒からの評価も高かった。特に１年生に対する地元企業ガイダンスは地元志向も高まり成果があった。	A	○進路について真剣に考える姿勢が身についた。 ▲日々の学習にどうつなげるかが課題である。	A (B) C D
		❷外部模試における客観的評価が向上する。具体的数値目標が達成される。	②補習や模試等により学習習慣が定着し、学力向上や弱点強化を図ることができた。	B	○公務員に多数合格した。また、推薦入試の合格率が高くなった。 ▲欠席の多い生徒、自信のない生徒への就職指導が課題である。	
		❸行事に招く外部講師や保護者による本校に対する評価が向上する。	③地元企業の協力や就職補習により、地元就職50%と就職内定率100%を達成できた。	B	○地元企業との信頼関係が生まれてきている。 ▲地元から出たい生徒に、地元に向かせる指導が課題である。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成３１年１月２５日

学校評議員のご意見

・地元企業の魅力を、地元就職希望者だけではなく、他地区への就職者や進学者にも伝えることができないか。

12　来年度に向けての改善方策案

・下呂市の将来を見据え、進学者に対しても地元への愛着を持たせ、進学先卒業後の進路として地元企業を意識できるような取組を、本校入学直後の１年次より実施していくべきであると考えている。

【別添２】（様式例１）

平成３０年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(生徒指導)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校** **(2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○身だしなみ指導や分掌、学年会・各分掌・管理職との連携を通じて、情報を共有化し、スムーズな運営ができている。 ▲問題行動の発生件数が少ないため、職員の危機意識が低下していること。また、生徒指導が時代の流れに伴い、問題行動の指導から教育相談等の問題が多くなり、研修等を通じて知識の向上を図ることが必要である。
3 分掌の抱える課題	未然防止に対する教育活動や研修等を充実させ、教育相談や発達障害に関する知識を備える必要がある。また、保護者対応の方法を身に着ける必要がある。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 学校規律、授業規律の確立 (2) 自他の人権や生命を尊重する意識の確立 (3) 問題行動の未然防止と事後指導

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、忘れ物、授業態度などについて、職員の意思疎通を図り、生徒に指導します。 ②いじめ調査や生徒観察により、年間を通していじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル(SNS)意識を高めます。 ③ 問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、早期発見･早期対応(解決)に努め、事後指導まで粘り強く行います。	❶規範意識を持って、落ち着いた学校生活が送れている。また、正しい服装の着こなしができている。	① 全体的には落ち着いている。端正な身だしなみを保ち、地域や外部から、良い評価をいただいている。	B	○正しい着こなしが定着してきた。 ▲男子の着崩しが目につくようになってきた。	A (B) C D
		❷いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等を使った画像（製造・所持・ばらまき）や誹謗中傷がない。	② いじめや情報モラルについて、必要に応じて、各クラスを回り注意喚起している。また、外部講師を招き、講話等を実施し結果、問題行動は減っている。	B	○いじめや情報モラルについて、生徒の認識が上がってきた。アンテナを高く張り、情報交流を積極的に行うことができた。 ▲職員の共通理解を図り、早期発見、早期対応に努めたい。	
		❸問題行動の件数が減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。	③ 職員の共通理解が図られるようになった。また、学年・分掌・管理職との連携により解決に向けた取組が積極的に行われるようになった。	A	○注意喚起や情報交流が密に行われた。外部の関係機関との連携が行われるようになった。 ▲未然防止に積極的に取り組み、情報共有を行いながら、粘り強く指導をしていく必要がある。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成３１年１月３１日

学校評議員のご意見	12　来年度に向けての改善方策案
・特にいじめについて、早期に発見し早期に対応をお願いしたい。	・アンテナを高くし、日常の姿やアンケート、周囲の情報から的確に判断し指導する。 ・職員間で情報共有し、早期発見・早期対応を心がけて行きたい。 ・先を見通した対応と、外部機関との連携を深め、多方面から生徒支援をしていきたい。

【別添２】（様式例１）

平成３０年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（特別活動）

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

１　学　校　教　育　目　標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
２　分掌における現状の分析	○活発な生徒会活動がなされ、学校発展のために貢献しよく努力している。また、地域と協同し、ボランティア活動などを、定期的に行っている。
３　分掌の抱える課題	活動する生徒が半年毎に変わることもあり、継続した活動になりにくい。 他の分掌との連携関わりを大切にしつつも、業務分担の主となるところを明確にしていく必要がある。 生徒の減少による予算の縮小化を改善する必要がある。
４　今年度の具体的な重点目標	(1) 生徒会活動の活性化 (2) ボランティア活動を通しての地域への貢献 (3) 部活動、学校行事に真剣に積極的に取り組む学校全体の取組

年度目標			年度末（途中）評価			
５　評価項目領域・分野	６　重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	７　達成度の判断・判定基準あるいは評価指標	８　取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	９　評価 A･B･C･D	10　成果と課題	11 総合評価
特別活動	①三大学校行事（球技大会、文化祭、三送会）への取組を通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。また、地域との連携を意識して活動します。 ②部活動への自主的な取組を通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。地域との関わりを意識して活動します。 ③生徒会執行部を中心としたMSリーダーズ活動、ボランティア活動への自発的な参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深め、地域社会と積極的に関わろうとする姿勢、地域に貢献する心を育てます。	❶ 行事の取組が生徒主体であり、自ら考える姿勢、絶えず変革しようとする姿勢が見られる。	・生徒会が活動の牽引役となり、より活動的にするための努力をしてきた。また、学校全体を見渡し、自校愛の持てるよう、常に計画と反省点を踏まえて活動している	B	○生徒主体で、行事の計画・運営ができ、充実した活動であった。 ▲意思疎通を図り、意見を検討し反映させることが大切である。	A (B) C D
		❷ 地域社会の一員としての自覚が生徒に見られ、地域社会と積極的に関わり貢献する意識を持ち、実際の行動に移せている。	・地域社会の一員という自覚を持ち、地域で貢献できる活動を行っている、特に生徒会環境厚生課を中心に、施設訪問、暑中見舞、年賀状、募金活動などの福祉活動と連携した活動をしている。	A	○地域の方と共に協力しながらできる活動を行っている。 ▲毎年、継続はしているが、新たな取組や、反省・再考が必要である。	
		❸ 部活動への取組が生徒主体であり、部活動を通して成長しようとする姿勢が見られる。女子バレー、陸上、弓道、美術など大きな成果を上げている。	・生徒が主体的となり、部活動を活性化するために、積極的に参加し、活動を行っている。また、部活動を通じて心身の鍛錬し、人間的にも大きく成長している。	A	○部活動の活性化が、学校活性化につながり、人間的な成長している。 ▲部活動と勉学の両立が困難な生徒もいる。	

Ⅱ 学校関係者評価　実施年月日：平成３１年１月２５日

学校評議員のご意見

・インターアクト部が行っているアジア・アフリカの支援事業について、回覧板などを利用して地域の皆様が分かるよう効果的に参加を呼びかけている。大変すばらしいことなので今後も継続していただきたい。

12　来年度に向けての改善方策案

・部活動については働き方改革や生徒にとっての望ましいあり方など、国・県の指針に従い、活動の意義や活動時間の見直し等を整理する。学業との両立を果たしながら活発な活動を推し進めていく。

【別添２】（様式例１）

平成３０年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（保健安全）

Ⅰ　自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○防災教育を行ったうえでの避難訓練の実施による危機意識の高揚と非常時対応への取組が向上した。
3 分掌の抱える課題	学校生活の全般において、命・健康と安全に対しての根本的な意識づけをより意図的におこなう活動。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 心身の健康についての知識と実践する力の養成 (2)「生命を守る」訓練、「助け合う」行動に繋がる教育の推進 (3) 安全面等での地域と連携

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
保健安全	① 自らの身体と精神の健康を考え、生活を見直す保健安全教育、感染症予防のための保健指導に取り組みます。 ② 多様な災害に対し、自らの生命を守り、適切な判断･行動のできる生徒の教育に取り組みます。 ③ 環境美化に関わり貢献できる生徒の行動習慣を身につけ、地域の避難拠点としての学校づくりに取り組みます。	❶心身の健康に関わる諸調査を実施して判断する。	① 保健室に来室する生徒の訴えを分析し、その対応について連携を図った。	B	○教育相談との連携、専門医との連携・協力ができた。	A Ⓑ C D
		❷学校の体制づくり、訓練または教科における指導などを総括的に評価する。	②避難訓練の実施、防災週間におけるシェイクアウト訓練、教科における防災マップの学習、２年生における防災教育の推進をおこなった。	B	○防災に対する日常的な意識は高まってきている ▲２年生の防災リーダーの学習機会の確保と地域の防災を担う意識を高める取組が必要である。	
		❸環境美化に対して生徒会活動による見直しを行い、外部の要望に対応、評価を参考に判断する。	③生徒会を中心に校内、部活動の協力により、地域の環境美化活動をおこなった。 行政主導であるが、避難拠点としての校内整備を進めつつある。	B	○生徒の地域の環境美化や挨拶をになう学校である意識ある行動は日常化してきている。 ○地域行政との有事の際の体制整備・役割分担を具体化しつつある。	

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：平成３１年１月２５日

学校評議員のご意見

・下呂市には防災士の資格を取得した人がいる。そういう地域の力を活用して、防災教育をおこなってはどうか。

・６月の豪雨災害で金山地区では水没した多くのゴミが集められた。その回収に本校生徒もボランティアとして活動していた。そういう活動は日頃の学校での教育活動の元に生まれているものだと考えられ有り難い。

12　来年度に向けての改善方策案

・生徒の防災教育に対しては、地域の力を活用してみる。下呂市の防災士にお願いをして、防災リーダーを教育して、その責任感を高める。そのリーダーを中心にして、同級生に対しての防災教室（講話）を実施することで、身近な問題に置き換えて防災意識の高揚に結び付ける。また、生徒自身の実体験の集約をすることにより、自分のできる安全確保と「いざという時に自分にできること・地域における高校生の果たすべき役割」について考える機会をつくる。